

Histoires Naturelles

朝早くとび起きて、頭はすがすがしく、気持ち澄み、からだも夏の衣装のように軽やかな時にだけ、彼は出かける。別に食い物などは持って行かない。みちみち新鮮な空気を飲み、健康な香りを鼻いっぱい吸い込む。獲物も家へ置いて行く。

# 狩人の 影像の

すがたのかりうど

ルナール  
〈博物誌〉

新潮文庫より 岸田国土 訳

彼はただしっかり目をあけていさえすればいいのだ。

その眼が網の代わりになり、そいつにいろいろなものの影像が

ひとりで引っかかって来る。

それから、彼は林のなかへはいる。

すると、

われながらこんな繊細な感覚があったのかと思うようだ。

好い香がもう全身にしみわたり、どんな鈍いざわめきも聞き逃さない。

そして、すべての樹木と相通じるために

彼の神経は木の葉の葉脈に結びつく。

すがたのかりうど

## 影像の狩人

〈博物誌〉ルナール 岸田国土 = 訳

Histoires Naturelles